2024年度

授業進度計画
（シラバス）

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校　歯科衛生学科1年

歯科衛生学科/３年制　　(2024年度入学生)

	授業科目			授業形態	単位数	時間数	期	１年		２年		３年	
	分野	教育内容	科目名					前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	基礎分野	科学的思考の基礎	生物学	講義	1	15	前期	15					
2		人間と生活	教育方法論	講義	1	15	後期		15				
3			心理学	講義	1	15	後期		15				
4			人間関係論	演習	2	60	通年	30	30				
5			社会人基礎講座Ⅰ	講義	1	15	後期		15				
6			社会人基礎講座Ⅱ	講義	1	15	前期					15	
7			情報処理Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
8			情報処理Ⅱ	演習	1	30	前期					30	
9			歯科英語	講義	1	15	後期				15		
		分野小計			10	210		45	105	0	15	45	0
10	専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学・組織発生学	講義	2	30	前期	30					
11			栄養と代謝	演習	1	30	後期		30				
12			生理学	講義	1	15	前期	15					
		小計			4	75		45	30	0	0	0	0
13		歯・口腔の構造と機能	口腔組織発生学	講義	1	15	前期	15					
14			口腔解剖学	講義	2	30	前期	30					
15			歯牙解剖学	講義	1	15	後期		15				
16			口腔生理学	講義	1	15	前期	15					
		小計			5	75		60	15	0	0	0	0
17		疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講義	1	15	前期	15					
18			口腔病理学	講義	2	30	前期	30					
19			薬理学	講義	2	30	後期		30				
20			微生物学・口腔微生物学	講義	1	15	後期		15				
		小計			6	90		45	45	0	0	0	0
21		歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉論	講義	2	30	前期					30	
22			口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30	前期	30					
23			口腔衛生学Ⅱ（統計学含む）	演習	1	30	通年					30	
24			衛生学・公衆衛生学	講義	2	30	前期					30	
		小計			7	120		30	0	0	0	90	0
		分野小計			22	360		180	90	0	0	90	0
25	専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生学概論	講義	2	30	通年	30					
		小計			2	30		30	0	0	0	0	0
26		臨床歯科医学	歯科保存学	演習	1	30	後期		30				
27			歯周病学	演習	1	30	後期		30				
28			歯科補綴学	演習	1	30	前期			30			
29			口腔外科学・麻酔学	演習	1	30	前期			30			
30			小児歯科学	講義	1	15	後期		15				
31			歯科矯正学	演習	1	30	前期			30			
32			高齢者歯科学	演習	1	30	前期			30			
33			障害者歯科学	演習	1	30	前期			30			
		小計			8	225		0	75	150	0	0	0
34		歯科予防処置論	歯科予防処置論基礎	講義	1	15	前期	15					
35			歯周病予防法Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
36			歯周病予防法実習Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
37			歯周病予防法Ⅱ	演習	1	30	通年			30			
38			歯周病予防法実習Ⅱ	演習	2	60	通年			60			
39			う蝕予防法	演習	1	30	後期		30				
40			歯科予防処置実践実習	講義	1	15	前期					15	
		小計			8	210		15	90	90	0	15	0
41		歯科保健指導論	歯科保健指導論基礎	講義	1	15	前期	15					
42			歯科保健指導論Ⅰ	演習	2	60	後期		60				
43			栄養指導	講義	1	15	通年		15				
44			歯科保健指導論Ⅱ	演習	1	30	前期			30			
45			歯科保健指導演習	演習	1	30	後期				30		
46			歯科保健指導論Ⅲ	演習	1	30	前期					30	
		小計			7	180		15	75	30	30	30	0

47	専門分野	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	演習	2	60	前期	60						
48			歯科材料学	演習	2	60	後期		60					
49			歯科診療補助論Ⅱ	演習	2	60	前期			60				
50			歯科診療補助演習	演習	1	30	後期				30			
51			臨床検査	演習	1	30	前期			30				
52			救命救急法	講義	1	15	通年					15		
		小計			9	255		60	60	90	30	15	0
53		臨地実習（臨床実習含む）	臨地実習Ⅰ	実習	1	45	通年	45						
54			臨地実習Ⅱ	実習	1	45	通年			45				
55			臨地実習Ⅲ	実習	7	315	通年			315				
56			臨地実習Ⅳ	実習	9	405	通年					405		
57			臨地実習Ⅴ	実習	2	90	通年					90		
		小計			20	900		45	0	360	0	495	0
		分野小計			54	1,800		165	300	720	60	555	0
58	選択必須分野	選択分野	口腔機能管理学	講義	2	30	後期				30			
59			専門職連携演習	演習	1	30	前期					30		
60			歯科衛生学の統合と実践	演習	2	60	通年					60		
61			総合歯科医学セミナー	講義	2	30	後期						30	
		小計			7	150		0	0	0	30	90	30	
		分野小計			7	150		0	0	0	30	90	30	
		授業形態別	講　義	28	38	570	－	255	135		45	105	30	
			演　習	28	35	1,050	－	90	360	360	60	180	0	
			実　習	5	20	900	－	45	0	360	0	495	0	
	総計				93	2,520	0	390	495	720	105	780	30	

歯科衛生学科

歯科衛生学科1年(2024年度生)17期生

カNo.	No.	科目	種別	前期(回)	後期(回)	通年科目	単位	授業担当者	ページ
1	1	生物学	講義	8			1	村主　節雄	1
2	2	教育方法論	講義		8		1	日髙　幸亮	2
3	3	心理学	講義		8		1	大久保　智生	3
4	4	人間関係論	演習	15	15	○	2	副島　慶子	4
5	5	社会人基礎講座Ⅰ	講義		8		1	横井　敦子・太田　克子	6
7	6	情報処理Ⅰ	演習		15		1	田井　麻友美	7
10	7	解剖学・組織発生学	講義	15			2	荒木　伸一	8
11	8	栄養と代謝	演習		15		1	堀澤　佳史	9
12	9	生理学	講義	8			1	中井　恵	10
13	10	口腔組織発生学	講義	8			1	池田　優佳	11
14	11	口腔解剖学	講義	15			2	池田　優佳	12
15	12	歯牙解剖学	講義		8		1	池田　優佳	13
16	13	口腔生理学	講義	8			1	吉田　淳一	14
17	14	病理学	講義	8			1	荒木　伸一	15
18	15	口腔病理学	講義	15			2	大河原　敏博	16
19	16	薬理学	講義		15		2	芳地　一　・　小坂　信二	17
20	17	微生物学・口腔微生物学	講義		8		1	岡部　昭延	18
22	18	口腔衛生学Ⅰ	講義	15			2	荻野　芳	19
25	19	歯科衛生学概論	講義	15		○	2	横井　敦子・本田　里恵	20
26	20	歯科保存学	演習		15		1	岡村　純子	21
27	21	歯周病学	演習	15			1	岡村　純子	22
30	22	小児歯科学	講義		8		1	池田　耕士	23
34	23	歯科予防処置論基礎	講義	8			1	森田　由紀	24
35	24	歯周病予防法Ⅰ	演習		15		1	森田　由紀・横井　敦子 鈴木　仁美・小野　愛梨	25
36	25	歯周病予防法実習Ⅰ	演習		15		1	森田　由紀・横井　敦子 鈴木　仁美・小野　愛梨	26
39	26	う蝕予防法	演習		15		1	鈴木　仁美・太田　克子	27
41	27	歯科保健指導論基礎	講義	8			1	森田　由紀	28
42	28	歯科保健指導論Ⅰ	演習		30		2	松田　珠生・横井　敦子・鈴木　仁美 森田　由紀・小野　愛梨	29
43	29	栄養指導	講義	8		○	1	松田　珠生	31
47	30	歯科診療補助論Ⅰ	演習	30			2	小野　愛梨・横井　敦子	32
48	31	歯科材料学	演習		30		2	岡村　純子・鈴木　仁美 小野　愛梨・横井　敦子・森田　由紀	34
53	32	臨地実習Ⅰ	実習	45時間		○	1	横井　敦子・森田　由紀 小野　愛梨・鈴木　仁美	36
	合計			199	228	単位計	42		

※上記は変更になることもあります。

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
生物学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・　演習　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	村主　節雄（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
生体構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を修得する。
【実務経験有】村主　節雄：高等学校教員免許の資格を活かし、大学での指導経験をもとに、生命科学の基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 細胞の構造と機能について概説できる。
2. 細胞の基本的構造とその機能を概説できる。
3. 細胞代謝について概説できる。
4. 遺伝子と遺伝について説明できる。
5. 人体の発生の過程を説明できる。
6. 生命を構成する物質を挙げることができる。
7. 生体における化学反応について説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	人体1:1編・1，2章 生命とは何か	1)生命をつくる物質 2)真核生物とは何か 3)生物の変遷 4)細胞を作る主要な元素	・生物の特徴 ・生命をつくる物質の構成
2	細胞の構造と機能	1)原核細胞と真核細胞の特徴 2)真核細胞の基本的構造と働き	・細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能 ・細胞の基本的生理機能
3	細胞分裂と細胞周期	1)細胞周期の過程 2)細胞死の種類	・染色体の数と複製 ・ヒトの組織と分類・ヒトの器官
4	遺伝子と遺伝	1)遺伝子と染色体の構造　性染色体による性の決定 2)遺伝子と遺伝情報	・減数分裂・転写と翻訳の過程 ・デオキシリボ核酸（DNA）の複製と修復の機序
5	人体の発生	1)発生の過程	・受精と着床、胎児の発育
6	細胞代謝 人体2:1編・1，2章	1)細胞の様々な活動	・酵素 ・細胞呼吸とエネルギー産生
7	生命を構成する基本物質	1)生体の反応に必要な水の役割 2)生体構成成分と栄養素の種類	・糖質、脂質、タンパク質、核酸の基本的構造
8	生体における化学反応	1)酸素の運搬と二酸化炭素の排出 2)細胞内での代謝	・エネルギー代謝、分解、合成

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1　解剖学・組織発生学・生理学」 「人体の構造と機能2　栄養と代謝」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1)　科目終了時の最終試験の評価　：90% 2)　出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
教育方法論	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	日髙 幸亮

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
様々な立場から「教育」について学び、教育方法について具体的に考える。また、必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 課題に対する自分の意見を他者にわかるように表現できる。
2. グループワークで得られた意見を、統合して発表できる。
3. 質問に対して的確な応答ができる。
4. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点と改良点を指摘できる。
5. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	教育の現場を知る	1)教員主導型学習	・教育の質
2		2)学生主導型学習	・アクティブラーニング ・協同学習（ジグソー）
3	グループワーク	1)「チーム」で働くためのコミュニケーション	・目的の共有 ・計画
4	プレゼンテーション	1)内容の方向性の検討	
5		2)内容の詳細の検討	
6		3)内容の詳細の検討	
7		4)媒体の準備	
8		5)発表とまとめ、ふりかえり	

事前学習
次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
テキストなし	1） 課題発表 ：90% 2） 出席率 ：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
心理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位(15 時間)	必須	大久保 智生

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
良好な対人関係を構築するために、基本的な知識と人の一生の間に生じるさまざまな心理・行動上の変化である発達について、理解を深める。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。
2. 動機づけを概説できる。
3. こころの健康に対する支援を概説できる。
4. こころの発達にかかわる要因を概説できる。
5. パーソナリティの特徴を概説できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	学ぶ・覚えるこころ	1)学習のプロセス	・レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ
		2)記憶のメカニズム	・記憶の過程、構造
2	やる気の心理	1)動機づけ	・マズローの理論
	その人らしさのパーソナリティ	2)パーソナリティの記述	・観察法、面接法、性格検査法
3	発達するこころ	1)「発達」を考える	・発達、成長
4		2)発達段階と発達課題	・エリクソンの精神発達理論 ・ピアジュの思考発達段階説
5		3)乳幼児期から児童期のこころの発達	・発達障害
6		4)青年期	・自己概念とアイデンティティ
		5)成人期	・加齢現象、自己実現
7		6)高齢期	・結晶性知能、流動性知能
8	人と関わる心理	1)対人認知	・第一印象、親近効果
		2)帰属理論	・原因の帰属
		3)対人魅力	・近接性、身体的魅力、類似性、承認

事前学習
次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
テキストなし	1） 科目終了時の最終試験の評価 ：90% 2） 出席率 ：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科　/　学　年	年　度　/　時　期	授　業　形　態
人間関係論	歯科衛生学科/1年次	2024年度/通年	講義　・　(演習)　・　実習
授　業　の　回　数(×90分)	単　位　数　(時　間　数)	必　須　・　選　択	授　業　担　当　者
30回	2単位(　60　時間)	必須	副島　慶子（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。
教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。
【実務経験有】副島　慶子：大学などでコミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。

［授業修了時の達成課題(行動目標)］
1. 自分を観察し、内省することができる。
2. 自分の直感やひらめきを信じ、行動に移すことができる。
3. 自分を含めたひとの感情を丁寧に扱い、共感を持って他者を受けいれることができる。
4. 非言語ツールやユーモア等がもたらす、「伝わりやすい」「つながる」表現を心がけるようになる。
5. グループにて、リーダーシップおよび建設的な関係を形成できる。

［授業の内容］

回	単元	内容	学習のポイント
1	序論	1)コミュニケーションとは？	
2	観察すること	1)見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		2)見る意識を持つ	・気づくこと
4	個人の尊重	1)人の「違い」を理解する	・「あるがまま」の感覚
5		2)他者を受けいれる	・正直さ　・柔軟性
6	聴くこと	1)カラダ全体で聴く	・そこにいること
7		2)より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8		3)自分を見つめる	・ひらめき
9	想像力	1)想いを「視覚化」する	・具体化すること
10		2)他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11		3)これからを考える	・イメージの整理
12	身体表現	1)カラダ全体を使った表現を意識する	・わかりやすい表現
13		2)声に注目する	・コミットメント
14		3)非言語コミュニケーションを活用する	・「伝えよう」とする意識
15		4)リラックスした身体を知る	・息を合わすこと

※ 次のページに続く

事前学習
次回の授業内容をふまえて ログを用いて予習する

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
テキストなし	1）授業評価・レポート評価　：100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

［授業の内容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
16	信頼関係	1)心地良いボディタッチと声	・カラダに感謝する
17		2)信頼とは何か？	・状況を楽しむ　・安心感
18		3)チームワーク	・相手を感じる　・自分を信じる
19		4)抱える環境づくり	・リーダーシップ
20	そこにいること	1)自ら携わろうとする心	・プレゼンス
21		2)積極性	・レディネス
22	感情表現	1)感情のあれこれ	
23		2)自分の感情を表現する	・見える表現と見えない表現
24		3)他者の感情に寄り添う	・シェアリング
25	YES, AND	1)「NO, BUT」:否定・批判の感情プロセス	・待つこと
26		2)「YES, AND」:肯定・付加の感情プロセス	・何に「YES」か？
27		3)「YES, AND」の法則を活用する	・状況に「YES」するゆとり
28		4)「YES, BUT」:肯定・修正(昇華)の方法	・チア＆プッシュ
29		5)ディスカッション	・対話≠会話
30	まとめ	1)ジャーニーの作成	・成長を感じること

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
社会人基礎講座Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	横井 敦子・太田 克子 （実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
社会人、歯科衛生士に対し歯科医療現場および他職種連携のチームの一員として求められる行動、姿勢を改めて考える。患者に対し感じの良い立ち振る舞いや言葉遣いなど医療人として適切な対応力とは何かを話し合い主体的、意識的に非認知能力を高める学習の単元とする。

【実務経験有】横井 敦子・太田 克子：歯科衛生士の資格を活かし、歯科衛生士の態度と思考を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 社会人としてふさわしい考え方、行動、言葉遣いが実践できる。
2. 歯科医療現場で求められる倫理を知り、医療人としての姿勢および態度を身に付けることができる。
3. 対象者の立場で考えることができ、好感を持たれる態度を意識化、習慣化する。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士と医療倫理	1)倫理の必要性 2)歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 3)社会人としての倫理 4)歯科衛生士の倫理綱領	
2	非認知能力	1)非認知能力とは 2)自己を振り返る	
3		3)自己表現力 4)主体性	
4	ホスピタリティーとは何か	1)自分の周りで起こるホスピタリティーの探索 2)理想とする医療人についての意見交換	
5	医療人としての心構え	1)安心安全を考える 2)患者に対する柔軟的な対応力	
6	目標	1)自身の歯科衛生士像を具体化する 2)段階別自己目標シートを作成する	
7	正しい姿勢	1)正しい姿勢のとは 2)姿勢と口・歯の関係 3)姿勢と発達	
8		4)正しい姿勢と口腔機能 5)体感を鍛える	

事前学習
次回の授業内容をふまえて 日常生活で実践する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
「熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材」 配布プリント	1) レポート・課題評価 ：90% 2) 出席率 ：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科	年 度 / 時 期	授 業 形 態
情報処理Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	田井　麻友美（実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
情報技術の基礎となるコンピュータ基礎知識ならびに技法を習得する。
Wordソフトの基礎を理解し、パソコンを使った一般的な文書作成の基礎と文書表現の方法を身につける。
Excelソフトの基礎を理解し、パソコンを使った表およびグラフが作成できる技術を身につける。

【実務経験有】田井　麻友美：MCT2010等の資格をもち、企業等での指導経験も踏まえて、学生が社会に出てから必要なスキルを教授できる。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。
2. ワープロソフト、表計算ソフトおよびグラフィックソフトを用いて資料が作成できる。
3. ソフトウエア使用上のルールとマナーを述べることができる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	Wordの基本	1)Wordの起動と終了 2)Wordの画面構成	・Windowsの概要、Wordの概要を学習する ・Wordの画面の名称と役割
2	文字の入力と編集の基本操作	1)文字の入力方法をマスターする 2)文書の保存	・漢字の変換、変換候補の選択 ・名前をつけて保存
3	文書の編集	1)ページの書式設定 2)文字幅と文字間隔の設定	・ページ設定 ・右揃え、中央揃え、インデント
4	文書の印刷	1)改ページの挿入・ヘッダーとフッターの設定 2)段落番号の書式設定・タブ・インデント	・印刷プレビュー
5	文書の作成	3)ビジネス文書の作成例	・表の構成、表の作成方法 ・表、行、列、範囲選択
6	表を使った文書の作成	1)表の作成 2)表の編集	・箇条書き ・ヘッダー・フッター
7		3)文字列から表を作成する	・クリップアート ・ワードアート
8	図や画像を使った文書の作成	1)図形の作成・編集 2)テキスト ボックス・ワードアートの挿入	
9	Excelの基本 データの編集	1)Excelの基本要素と基本動作 2)データの入力・関数の入力	・Excelの画面の名称と役割 ・データの移動、コピー、クリア
10	表の編集	1)罫線の設定 2)セルの書式設定	・相対参照、絶対参照を学習する ・セルを結合して中央揃え
11		3)表示形式の設定 4)列幅や行の高さの調整	・フォントサイズ、フォントの色の設定 ・行の削除・挿入
12	ブックの印刷	1)ページ設定の変更 2)印刷範囲の指定	・改ページプレビュー
13	グラフと図形の作成	1)グラフの作成	・グラフツール ・グラフのスタイル
14	グラフと図形の作成 ブックの利用と管理	2)図形の作成 1)ワークシートの管理	・作業グループ ・MAX関数、MIN関数、COUNT関数
15	関数	1)統計関数 2)数学／三角関数	・SUM関数、AVERAGE関数を学習する
			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・「Microsoft Word2019＆Excel2019」 富士通エフ・オー・エム株式会社　FOM出版	1)科目終了時の試験評価　：60% 2)課題提出状況　：30% 3)出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
解剖学・組織発生学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	荒木 伸一（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】荒木　伸一：獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに人体の構造と機能に関する基礎知識を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 体の部位を解剖学的な名称で表現できる。
2. 皮膚と粘膜の構造と機能を概説できる。
3. 筋組織の構造と機能を概説できる。
4. 体循環と肺循環について説明できる。
5. 神経系の概要を学び脳神経の構造を理解する。
6. 心臓の構造をスケッチし、各構造の名称を記入できる。
7. 粘膜の構造を理解する。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容		学習のポイント
1	2章 発生	解剖学とは 1)組織とは	人体の区分 染色体と減少分裂	胎児の成長と発育 受精と着床、胚葉
2	Ⅱ編構造と機能 1章骨格系	1)骨の形態と構造	骨の基本的構造 骨の組織学的構造	破骨細胞 リモデリング
3				骨の連結
	2章筋と運動	1)筋の構造	頭蓋、上肢、下肢	起始・停止
4			骨格筋	
5	3章消化吸収	1)消化器の構造	唾液腺	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸 肝臓、胆のう、すい臓
6				
	4章循環	1)血管の構造		心臓の動脈と静脈
7		2)心臓の内部構造 3)動脈、静脈、リンパ		血液
8				胎児循環
9	5章感覚	1)皮膚の構造		
10				視覚器、聴覚平衡覚器、味覚器、臭覚器
11	6章神経系	1)神経系の基本構造 2)中枢神経系		脳の血管
12	7章呼吸	1)呼吸とは 2)呼吸器の構造		鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭 気管、気管支、肺
13	8章腎機能と排尿	1)泌尿器の構造		
14	9章内分泌	1)内分泌の構造		下垂体、甲状腺、上皮小体
15	10章生殖			

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1） 科目終了時の最終試験の評価　：90％ 2） 出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
栄養と代謝	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	堀澤 佳史（実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体に必要な栄養素の摂取と働きから健康の維持と増進を考える態度を養う。
【実務経験有】堀澤 佳史：歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生化学の基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 糖質、脂質、タンパク質の代謝を説明できる。
2. アミノ酸からタンパク質が合成される過程が説明できる。
3. 生体の恒常性を概説でき、ホルモン系と自律神経系を概説できる。
4. 歯の硬組織および唾液の生化学について説明できる、。
5. デンタルプラークの生化学を学び、齲蝕と歯周疾患への関わりを説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	糖質と脂質の代謝 3章P29～	歯科衛生士が生化学で学ぶこと 1)エネルギー代謝の全体像	・ピルビン酸・アセチルCoA・クエン酸回路
2		2)グリコーゲンの合成と分解 3)脂質の代謝とエネルギーの生成	
3	タンパク質とアミノ酸の代謝 4章P38～	1)タンパク質の加水分解・タンパク質の合成	・DNA
4	生体における恒常性の維持 5章P44～	1)恒常性とは 2)血糖値	・ホルモン系と自律神経系
5	歯と歯周組織の生化学 1章P50～	1)結合組織の組成と機能	・コラーゲン・エラスチン ・プロテオグリカン
6		2)歯の組成　・歯の無機成分	・タンパク質の合成 ・細胞外マトリックス
7		・歯の有機成分	・リン酸カルシウム・ヒドロキシアパタイト・フッ素 ・エナメルたんぱく質・アメロゲニン・エナメリン
8	硬組織の生化学 2章P65～	1)血清中のカルシウムとリン酸 2)石灰化の仕組み	
9		3)骨の生成と吸収　・骨芽細胞と破骨細胞 4)血清カルシウム調整	
10		ホルモン	・歯の脱灰・再石灰化・キレート作用
11	唾液の生化学 3章P81～	1）唾液の組成と機能	・糖タンパク
12			・酵素・抗菌因子
13	プラークの生化学 4章P90～	1）プラークの生化学　・プラークの生物活性	・酸産生・PH・耐酸性
14		・プラークのう蝕発生機構 ・代用甘味料	・菌体外多糖・食生活
15		・プラークによる歯周疾患発生機構	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ
「人体の構造と機能2 栄養と代謝」
全国歯科衛生士教育協議会　監修
医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
1） 科目終了時の最終試験の評価　：90%
2） 出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
生理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	中井 恵（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】中井 恵:歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生理学の基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 細胞の基本的機能の知識を学び理解する。
2. 心臓の機能、心筋の特徴、刺激伝導系を概説できる。
3. 血圧と心電図についてわかりやすく説明できる。
4. ニューロンとは何か言える。
5. 特殊感覚、体性感覚、内臓感覚と感覚器について概説できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生理学で学ぶこと	1)生理学とは	・なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか
	Ⅱ編		・骨格筋・心筋・平滑筋
2	1章骨格系	1)筋の機能　筋収縮機構	・運動ニューロン・反射・随意運動
	2章筋と運動	2)運動ニューロン	・伸張反射と膝蓋腱反射
		3)筋電図	・筋紡錘、筋電図
3	3章消化・吸収	1)口腔での消化	
		2)胃・小腸・大腸の機能	脊髄反射
4	4章循環	1)血管の機能	赤血球、白血球、血小板、血漿
		2)血液	一次止血、二次止血
			体循環、肺循環
5	6章神経系	1)神経細胞の興奮伝導	
		2)中枢神経、脳神経、自律神経	活動電位、シナプス
			交感神経、副交感神経
6	5章感覚	1)胸郭の構造と換気の仕組み	感覚の性質と種類
		2)排気量と換気量	体性感覚
	7章呼吸	1)血液中のO_2とCO_2の運搬	感覚の性質と種類
		2)呼吸の調節	体性感覚
7	9章内分泌	1)内分泌器官とホルモン	特殊感覚器
		2)内分泌の機能	感覚野
		3)歯、歯周組織、顎顔面とホルモン	外皮
	8章腎機能と排尿	1)排泄、排便、発汗	
8	11章体温	1)体熱の産生と放散	
		2)体温の調節	事前学習
		3)体温の変動	次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社	1) 科目終了時の最終試験の評価 ：90% 2) 出席率 ：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔組織発生学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	池田 優佳（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］

人体の成り立ちを理解するために、体の組織・発生に関する基本知識を習得し、顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する知識を身に付ける。

【実務経験有】池田　優佳：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］

1. 顔面・口腔・歯・歯周組織の発生について説明できる。
2. 口蓋裂と顔面裂について説明できる。
3. 舌の発生について説明できる。
4. エナメル質・セメント質・象牙質の形成について説明できる。
5. 歯の萌出過程と歯の交換について説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	Ⅱ編歯および歯周組織の発生 顔面と口腔の発生	1)鰓弓の形成　・顔面・口唇・口蓋・鼻腔 2)突起の形成と癒合 3)口蓋の形成 4)舌の形成	・顔面と頭部の原基 ・口唇裂・口蓋裂
2		5)腺の形成　・舌・腺の発生と形成 6)舌の形成	・甲状腺・下垂体
3	歯と歯周組織の発生	1)先行歯の発生　・硬組織の発生 2)代生歯および加生歯・萌出過程 3)歯の萌出	・歯提・蕾状期・帽状期・鐘状期 ・萌出前期・萌出期・機能期 ・二生歯性
4			
5		4)歯の脱落と交換	
6		5)歯の萌出の臨床的考察	・永久歯の形成時期と萌出時期 ・乳歯の形成時期と歯根吸収・脱落時期 ・永久歯の異所萌出
7	口腔の組織を理解する実習		
8			

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90% 2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔解剖学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	池田 優佳（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。
【実務経験有】池田　優佳：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 口腔周囲の各部位の名称を説明できる。
2. 口腔を構成する骨を説明できる。
3. 頭頚部の筋と作用、顎関節の構造と機能、口腔周囲の脈管及び神経を説明できる。
4. 咽頭と咬頭の構造が説明できる。
5. 歯の形態と特徴を歯種別に説明できる。
6. 歯の形態異常が説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	Ⅰ編　歯・口腔の構造	1）口腔とは	・口腔前庭と固有口腔
2	1章口腔とその周囲の解剖学		
3	3章歯および歯周組織の構造と機能	1)エナメル質 2)象牙質・歯髄複合体	・永久歯の硬組織の比較 ・存在する構造物
4		3)セメント質 4)歯槽骨・歯根膜・歯肉	・成長線 ・加齢変化
5			
6	1章口腔とその周囲の解剖学	2）口腔を構成する骨	
7			
8			・口蓋・舌・頰・唾液腺・咽頭・喉頭 ・頭蓋骨
9			・上顎骨 ・下顎骨
10			・顎関節・副鼻腔・頭頚部の筋
		3）頭頚部の筋と作用	・咀嚼筋
11			・舌骨上筋群・舌骨下筋群
12			
		4）顎関節	
13		5）口腔周囲の脈管 6）神経	・動脈・静脈系・リンパ節 ・脳神経の種類
14			・三叉神経
		7)咽頭・喉頭の構造	・顔面神経
15		8)嚥下に関する筋	

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修　医歯薬出版株式会社 ・「口腔顎顔面解剖ノート」学研書院 ・「歯科衛生士書き込み式学習ノート」医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90％ 2）出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯牙解剖学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	池田 優佳（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］

口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。

【実務経験有】池田 優佳：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］

1. 歯冠と歯根の形態の特徴を説明できる。
2. 歯の形態異常が説明できる。
3. 永久歯と乳歯の違いを説明できる。
4. 歯の形態と特徴を歯種別に説明できる。
5. 歯型彫刻を作成し歯の形態を理解することができる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容		学習のポイント
1	Ⅰ編2章歯の形態			・歯種の鑑別
		1)歯の構造・種類・記号		・咬合彎曲の種類、歯列と頭蓋、咬合の形
2		2)歯冠と歯根の形態		・スピー彎曲、ウィルソン彎曲、モンソンカーブ
		3)永久歯の形態学的特徴		・カンペル平面、フランクフルト平面
3		4)乳歯の形態学的特徴		・空隙・下顎位
4		5)歯の異常		
		6)歯根の異常		
5		7)歯列と咬合		
6				
7	歯・口腔の形態を理解するための実習	1)形態学的特長	全永久歯	★歯牙判別確認
			全乳歯	・歯冠・歯根の異常
8				・歯牙のデッサン(永久歯)
				★デッサン提出
				歯型彫刻実習 ・上顎中切歯 ・上顎第一大臼歯 ・下顎第一大臼歯
				★歯型彫刻提出
				事前学習
				次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］

・歯科衛生学シリーズ
「歯・口腔の構造と機能
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
全国歯科衛生士教育協議会　監修　医歯薬出版株式会社
・「口腔顎顔面解剖ノート」学研書院
・「歯科衛生士書き込み式学習ノート」医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)

1) 科目終了時の最終試験の評価　：50%
2) 提出物（デッサン・歯型彫刻）　：40%
3) 出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔生理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・演習・実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	吉田 淳一（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するため、また機能障害を予防治療するための知識を身につける。
【実務経験有】吉田　淳一：歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔生理に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 口腔顔面領域の感覚神経機構、触圧覚が説明できる。
2. 味覚と嗅覚について説明できる。
3. 下顎位、下顎反射を説明できる。
4. 嚥下と嘔吐について説明できる。
5. 唾液の分泌機構、成分、生理作用について説明できる。

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	Ⅲ編歯・口腔の機能 1章歯・口腔・顔面の感覚	1）歯の感覚 2）口腔粘膜の感覚	・圧覚 ・歯髄の感覚 ・関連痛
2	2章　味覚と嗅覚	1）味覚 2）嗅覚	・味覚の役割 ・味蕾（未覚受容器） ・味覚神経、味覚障害と味盲 ・嗅覚の役割
3	3章　咬合と咀嚼・吸啜	1）下顎位 2）下顎の運動	・下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位、中心咬合位 ・下顎運動、下顎限界運動、咀嚼筋 ・下顎の運動に関与する筋
4		3）顎反射 4）摂食行動 5）咀嚼能力 6）吸啜	・閉口反射、開口反射 ・咀嚼
5	4章　嚥下と嘔吐	1)嚥下時の食塊の動き 2)嘔吐の神経機構	・咽頭、鼻腔・口腔・喉頭 ・上咽頭、中咽頭、下咽頭 ・嚥下の概要 ・嚥下に関与する筋群
6	5章　発声・発語	1)発声機構の概要 2)声の生成 3)言語音の形成 4)歯と口腔の病態と発音	
7	6章　唾液	1)唾液腺 2)唾液の分泌機構 3)唾液の性状・成分と機能 4)唾液と疾患	・構音 ・声帯 ・機能性構音障害、器質的構音障害、運動障害性構音障害
8			・大唾液腺、小唾液腺
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能
　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
　全国歯科衛生士教育協議会　監修
　医歯薬出版株式会社
・「歯科衛生士書き込み式学習ノート」医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）科目終了時の最終試験の評価　：90％
2）出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
病理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・　演習　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	荒木　伸一（実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】荒木　伸一:獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生へ教授する。
［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 病因の内因と外因について説明できる。
2. 退行性病変である代謝障害の変性・萎縮・壊死についての基礎知識を身につけ、それぞれ概説できる。
3. 進行性病変である増殖と修復についての基礎知識を身につけ、肥大、増生、化生、再生について説明できる。
4. 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違がポイントを絞って説明できる。
5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	病理学序論	1)疾病の多様性と共通性	・恒常性、病態 ・完全治癒、不完全治癒
	病因論	2)内因・外因	・栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子
2	遺伝性疾患と奇形	1)遺伝性疾患	・染色体、先天異常、遺伝病
		2)奇形	・器官形成期 ・重複奇形、単体奇形
3	循環障害	1)循環血液量の異常	・体液、体循環、肺循環 ・虚血、充血、うっ血、出血、浮腫、ショック
		2)閉塞性の循環障害	・血栓症、塞栓症、器質化、動脈硬化症
4	代謝障害と退行性病変	1)細胞障害	・細胞障害因子 ・退行性病変、進行性病変
		2)変性と物質代謝障害	・タンパク質変性、硝子変性、脂肪変性 ・萎縮、アポトーシス
5	増殖と修復	1)再生と修復	・肥大、増生、化生 ・不安定細胞、安定細胞、永久細胞
		2)創傷治癒	・肉芽組織 ・一次治癒、二次治癒、器質化
6	炎症	1)炎症とは	・5大徴候、免疫反応、組織学的変化 ・ケミカルメディエーター、炎症に関与する細胞
		2)炎症の分類	・炎症の分類、急性、慢性
		3)感染症	・病原微生物、菌交代現象、日和見感染
7	免疫応答異常	1)免疫応答	・抗原抗体反応、免疫グロブリン ・一次応答、二次応答
		2)アレルギー	・アレルギーの分類（Ⅰ～Ⅳ） ・自己免疫疾患、免疫不全症
8	腫瘍	1)腫瘍の発生	・発がん因子、がん遺伝子
			事前学習
		2)腫瘍の種類と性質	次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1)　科目終了時の最終試験の評価　：90% 2)　出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔病理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	大河原 敏博（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】大河原 敏博：歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔内の疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯の発育障害の種類と病態を相互で説明することができる。
2. 象牙質・セメント質の増生と歯根膜の石灰化についての知識を身につけ患者に説明できる。
3. う蝕の病因と病態を図を使用して患者に説明できる。
4. 歯髄・歯周組織の病変についての基礎知識を身につけ、病名と症状を専門用語で説明できる。
5. 口腔粘膜創と抜歯創の治癒について説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯の発育異常 歯の損傷と着色・付着物	1)大きさ・歯数・形・構造の異常	・局所的な原因と全身的な原因
2		2)物理的損傷、歯の着色、プラーク	・色の異常（ポルフィリン・黄疸・テトラサイクリン）
3	う蝕	1)う蝕の疫学、組織学的分類	・口腔細菌、多因子性疾患 ・発生機序
4		2)う蝕の組織学的変化	・エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕
5	象牙質・歯髄複合体の病態	1)歯髄炎	・病因と発生機序 ・急性歯髄炎、慢性歯髄炎
6		2)象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	・第二象牙質、第三象牙質
7	歯周組織の病態	1)病因と発生機序	・根尖部歯周組織の病変（炎症）
8		2)辺縁部歯周組織の病変	・歯肉炎、辺縁性歯周炎、急性壊死性潰瘍性歯肉炎、薬物性歯肉増殖症、若年性歯周炎、咬合性外傷
9	口腔粘膜の病変 口腔領域の嚢胞と腫瘍	1)口腔粘膜の特徴・病変	・ヘルペスウィルス感染、手足口病 口腔カンジダ症、扁平苔癬
10		2)口腔領域の嚢胞と腫瘍	・歯原性嚢胞（歯根嚢胞・原始性嚢胞・含歯性嚢胞） ・非歯原性嚢胞（粘液嚢胞・術後性上顎嚢胞）
11	口腔癌 顎骨の病変	1)前癌病変	・白板症、紅板症 ・扁平上皮癌
12		2)顎骨骨髄炎	・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死
13	唾液腺の病変	1)唾液腺に発生する病変	・流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群
14		2)良性腫瘍と悪性腫瘍	・多形腺腫、ワルシン腫瘍、粘表皮癌
15	口腔領域の奇形 口腔組織の加齢変化	1)口腔顎顔面の発生 2)口腔組織の加齢変化	・口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂、顔面披裂 ・エナメル質の変化、象牙質の変化、セメント質の変化
			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］
歯科衛生学シリーズ
「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1
病理学・口腔病理学」
歯科衛生士教育協議会　監修
医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）科目終了時の最終試験の評価　：90%
2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
薬理学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	芳地 一 ・ 小坂 信二 （実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。

【実務経験有】芳地 一・小坂 信二：薬剤師の資格を活かし、大学病院の業務経験をもとに薬剤に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 薬理作用（薬物の作用）について基本的形式と分類を説明できる。
2. 薬物の作用機序につて説明できる。
3. 協力作用、拮抗作用、相互作用について例を挙げながら説明することができる。
4. 神経系に作用する薬物の種類を列挙できる。
5. 痛みや炎症に対する薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1)薬物の定義と分類	・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品 ・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む
2			
3		2)薬物の作用・副作用	・薬物の副作用、有害作用 ・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存
4			
5	末梢神経と薬	1)末梢神経に作用する薬物	・自律神経系作用薬
6			
7	局所麻酔薬	1)局所麻酔薬とは	・局所麻酔薬
8			
9	痛みと薬	1)鎮痛薬とは	・麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬
10			
11	炎症と薬	1)炎症とは 2)炎症に作用する薬物	・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬
12			
13	血液と薬	1)血液凝固 2)血液に関連する薬物	・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬
14			
15	感染症と薬	1)抗感染症薬 2)消毒薬	・抗菌薬・消毒薬
			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ
「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3
薬理学」
全国歯科衛生士教育協議会 監修
医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1） 科目終了時の最終試験の評価 ：90％
2） 出席率 ：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年　度／時　期	授　業　形　態
微生物学・口腔微生物学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・　演習　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	岡部　昭延　（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】岡部　昭延：医師の資格を活かし、大学での講義経験をもとに微生物学の基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 細菌とウィルス、その他の微生物の形態的特徴と基本性状について概説できる。
2. 細菌の培養法、顕微鏡観察法の知識を身につけることができる。
3. 感染症の種類と、感染源・感染経路について説明できる。
4. 自然免疫と獲得免疫についてそれぞれ説明できる。
5. 歯周病原菌を列挙できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	疾病と微生物	1)疾病と微生物、免疫学 2)感染と感染症	・病原微生物・ウイルスの発見の歴史
2	微生物の病原性	1)微生物の位置づけ	・細菌（形態・構造・代謝・増進）
		2)細菌・ウイルス	・ウイルス（構造・増殖）
		3)歯科に関連するウイルスとウイルス感染症	・ヘルペスウイルス
		4)真菌・原虫	・口腔カンジダ症の症状
3	宿主防御機構と免疫	1)宿主防御機構	・自然免疫、粘膜免疫・全身免疫
		2)免疫機構	・免疫機構の発現と調節
4		3)免疫の種類	・能動免疫と受動免疫・自己免疫疾患
		4)ワクチン	・不活化ワクチン、トキソイド
		5)液性免疫と細胞性免疫	・抗原抗体反応、補体、遅延型過敏症
		6)アレルギー（過敏症）	・Ⅰ型アレルギー（ｱﾅﾌｨﾗｷｼｰ）、ﾂﾍﾞﾙｸﾘﾝ
5	化学療法	1)化学療法と化学療法薬	・細胞壁合成阻害薬
		2)主な化学療法薬の種類と特徴	・ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系抗菌薬、ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系抗菌薬
		3)抗真菌薬	
		4)抗ウイルス薬	・抗ヘルペス薬、抗ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ薬
6	口腔微生物学	1)口腔細菌叢	・口腔内細菌叢の成り立ちと遷移
		2)バイオフィルムとしてのプラーク	・ﾌﾟﾗｰｸの形成（粘着性多糖体の合成）
7	口腔感染症	1)齲蝕	・齲蝕病原性細菌
		2)歯内感染症	
		3)歯周病	・慢性歯周炎、侵襲性歯周炎
		4)その他の感染症	・ウイルス性唾液腺感染症、誤嚥性肺炎
8	院内感染対策と滅菌・消毒	1)口腔外感染症と院内感染対策	
		2)滅菌、消毒	

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1)　期末試験の評価（中間試験を含む）　：90% 2)　出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔衛生学Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	荻野 芳（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯、口腔の健康にかかわる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防に関する基本的知識を身に付ける。
【実務経験有】荻野 芳：歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯、口腔の健康を保持・増進する手段について概説できる。
2. 唾液腺の種類を何も見ずに列挙できる。
3. 歯磨剤、洗口剤の種類と組成を学び、確認テストで80％以上正解する。
4. 齲蝕発生のメカニズムについて理解し、確認テストで80％以上正解する。
5. フッ化物応用による齲蝕予防法を列挙できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容		学習のポイント
1	概論 口腔と健康	1）口腔衛生学の意義 1)歯科疾患の予防		・口腔衛生学を理解する ・口腔と全身の健康との関係を理解する
2		2)口腔機能 歯・歯周組織・口腔粘膜・舌・顎関節・唾液腺		・第一次、二次、三次予防を説明できる
3		咀嚼・嚥下・発音・味覚		・口腔機能を説明できる ・口腔機能の保持増進を学ぶ
4	歯口の発育と歯科疾患等に伴う変化	1)歯の形成 3)歯の交換	2)歯の萌出	・歯の形成、萌出、交換を説明できる ★1、2、3、4回の確認テスト
5	口腔環境	1)口腔の健康と全身の健康 唾液の作用・ペリクルの形成・エナメル質の成熟		・唾液の作用を説明できる ・エナメル質の成熟を説明できる
6	歯・口腔の不潔	1)プラーク 3)着色性沈着物	2)歯石 4)舌苔	・歯の付着物、沈着物を理解する ・歯石の特徴を説明できる
7	口腔清掃 歯磨剤・洗口剤	1)プラークコントロール 3)歯磨剤の組成	2)歯ブラシの種類 4)ブラッシング方法	・歯磨剤の組成を説明できる ★5、6、7回の確認テスト
8	齲蝕の予防	1)齲蝕の発生要因	2)齲蝕の発生機序	・齲蝕の発生要因を説明できる ・齲蝕の発生機序を説明できる
9		3)初期齲蝕の再石灰化	4)齲蝕活動性	・脱灰、再石灰化を説明できる ・齲蝕活動性を説明できる
10		5)第一次予防 7)第三次予防	6)第二次予防	・プラークコントロールを説明できる ・生活習慣の改善を理解する
11	歯とフッ化物	1)フッ化物の分布 3)齲蝕予防機序	2)フッ化物の毒性	・フッ化物の毒性を説明できる ・齲蝕予防メカニズムを説明できる
12		4)齲蝕予防への応用		・フッ化物歯面塗布を説明できる ★8、9、10、11、12回の確認テスト
13	歯周疾患の予防	1)有病状況 3)発生機序	2)症状と分類 4)歯周疾患と全身疾患	・歯周疾患の症状と分類を説明できる ・歯周疾患発生要因を説明できる
14		5)第一次予防 7)第三次予防	6)第二次予防	・全身疾患との関係を説明できる
15	口臭予防 不正咬合	1)口臭の分類と原因 1)不正咬合の分類	2)予防と処置 2)原因と予防	★13、14、15回の確認テスト
				事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる 人間社会の仕組み1 保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社	1） 科目終了時の最終試験の評価 ：70％ 2） 確認テスト ：20％ 3） 出席率 ：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科衛生学概論	歯科衛生学科/1年次	2024年度/通年	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	2単位（ 30 時間）	必須	横井 敦子・本田 里恵 （実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯科衛生を実践して人々の健康支援を支援するものとなるために、医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する。
【実務経験有】横井 敦子・本田 理恵：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科衛生学の基礎を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯科衛生学を概説できる。
2. 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。
3. 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。
4. 歯科衛生過程の全体像がイメージでき、概要を説明できる。
5. 歯科衛生過程の構成要素と書面化について知り、相互に説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士とは	1）歯科衛生学	・歯科衛生学の定義
		2）歯科衛生と健康	・健康の考え方
2		3）歯科衛生活動の対象	・ライフステージの関わる歯科衛生活動
		4）歯科衛生活動の領域	・チーム医療
3	歯科衛生の歴史	1）歯科衛生の誕生と経緯	・歯科衛生士憲章
		2）歯科衛生士の役割と展望	・歯科衛生士制度の誕生
4	歯科衛生活動のための理論	1）予防の概念	・一次予防、二次予防、三次予防
		2）歯科衛生の考え方	・健康と生活を分析するモデル
5		3）科学的思考	・保健行動
		4）歯科衛生活動の領域	・ヒューマンニーズ理論
6	歯科衛生士と医療倫理	1）倫理の必要性	・歯科衛生士の倫理、心構え
		2）医の倫理と患者の権利	
7		3）歯科衛生と倫理	・国際歯科衛生士連盟
		4）自己決定権の尊重・インフォームドコンセント	・日本歯科衛生士憲章
8	歯科衛生過程	1）歯科衛生過程とは	・歯科衛生アセスメント
			・情報収集、情報処理
9		2）歯科衛生課程活用の利点	・歯科衛生診断
		3）歯科衛生過程の流れ	・歯科衛生計画立案
10	歯科衛生士法と	1）歯科衛生士と歯科衛生士法	・歯科衛生士法
	歯科衛生業務	2）歯科衛生士の役割と展望	・歯科衛生士の法的性格
11	歯科衛生士の活動と組織	1）歯科衛生活動の現状	・歯科衛生士の動向
		2）歯科衛生活動の場	・保健、医療、福祉にかかわる歯科衛生士
12	歯科予防処置の基礎知識	1)歯科予防処置とは	
		2)予防とは	・第1次～第3次予防
13	歯科保健指導	1)歯科保健指導とは	・歯科専門知識の修得
	実施のための基礎知識		・行動変容に関連する理論
14		2)保健行動支援のための基礎知識	・行動変容を促す理論の実践
15	まとめ		・健康信念モデル、学習理論、社会的認知理論
			・行動変容ステージモデル、認知行動療法、動機づけ面接
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科衛生学総論」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社	1） 授業参加状況（出席・態度・レポート評価含む） ：100%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科保存学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	岡村　純子（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。
【実務経験有】岡村　純子：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科保存療法に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。
2. 窩洞の名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。
3. 修復処置に使用する器材の目的を説明できる。
4. 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。
5. 歯髄の保存療法を説明できる。
6. 外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	歯周疾患の診査	1）一般診査と歯周組織検査歯周組織の検査 2）エックス線写真による診査	・原因となる因子と咬合の診査 ・歯周疾患におけるエックス線写真読影
2			
3	歯周基本治療 歯周外科治療	1）歯周基本治療とは 2）歯周外科治療の目的	・歯周基本治療の効果と実際 ・目的と分類
4			
5	歯周治療としての リハビリテーション	3）歯周治療におけるリハビリテーションの方法	・咬合調整、矯正治療の意義 ・固定法、欠損補綴の意義と方法
6	メインテナンス	1）メインテナンス・SPTの重要性と意義 2）メインテナンス・SPTの内容	・インプラント治療のメインテナンス ・メインテナンスの意義、目的、方法
7		3）メインテナンス・SPTの流れ	・歯周組織検査・診断時の補助
8			
9	歯内療法学	1)歯内療法学の概要	
10		2)歯科衛生士と歯内療法	
11		3)歯髄の保存療法	・齲窩の開拡、薬剤の種類と所要性質、 歯髄鎮静療法、覆髄法、暫間的間接覆髄法
12		4)歯髄の除去療法	・除痛法、歯髄切断法、抜髄法 ・感染根管治療
13		5)根管治療・根管充填	・根管充填法
14		6)外科的歯内療法	・膿胞切開、根管掻爬、根尖切除、歯根切断法、 歯根分離法、ヘミセクション、 歯内骨内インプラント、再植、移植
15		7)歯内療法における偶発症 8)歯内療法に使われる薬剤・器材	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ
「保存修復学・歯内療法学」
全国歯科衛生士教育協議会　監修
医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
1）科目終了時の最終試験の評価　：90%
2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	講義　・　演習　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	岡村　純子（実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。
【実務経験有】岡村　純子：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯周療法に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯周病の種類と病態を説明できる。
2. 歯周治療の流れを説明できる。
3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
4. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
5. 歯周治療後の再評価ができる。
6. 歯周治療後のメインテナンス、SPTについてを説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	歯周治療の基礎知識	1）歯周疾患の現状と治療 2）正常な歯周組織の構造と機能	・歯周疾患の罹患状況 ・歯周治療の目的
2			
3	歯周疾患	1）歯周疾患の症候と症状 2）歯肉炎と歯周炎	・歯肉の発赤・腫脹・出血・排膿・動揺 ・歯肉炎と歯周炎の違い
4	歯周疾患の原因	1）局所因子 2）全身性因子、機能性修飾因子	・正常な歯肉と歯周ポケットの細菌 ・プラークの組成と歯周疾患
5	歯周疾患の分類 歯周医学	1)歯肉炎 2）歯周疾患と全身疾患の関連性	・外傷性咬合 ・歯周疾患の分類とその特徴
6			
7	歯周治療の進め方	1）歯周疾患の予防と治療の基本 2）歯周疾患の治療方針	・歯周治療の内容と進め方 ・歯周組織の破壊の程度と診査方法
8	総論	1)歯の保存療法の種類 2)口腔診査	・齲蝕、歯の外傷、歯の損傷、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周疾患
9	保存修復学	1)保存修復学の意味と概要	・窩洞の分類　・切削器具 ・防湿法、歯間分離法、歯肉排除法、隔壁法、除痛法
10		2)アマルガム修復	・銀アマルガム
11		3)コンポジットレジン修復	・化学重合型・光重合型コンポジットレジン
12		4)グラスアイオノマーセメント修復	・グラスアイオノマーセメント
13		5)ラミネートベニア修復	・ラミネートベニア修復
14		6)鋳造修復	・インレー修復
15		7)その他の修復法	・生活歯漂白

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

※講師の都合により、令和6年度は前期で実施となった

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90% 2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
小児歯科学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	池田 耕士（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。
【実務経験有】池田　耕士：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに小児歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。
2. 各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。
3. 歯列および咬合の発育と発育障害を説明できる。
4. 乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴を説明できる。
5. 小児のう蝕予防と進行抑制法を説明できる。
6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	小児歯科学概論	1）小児歯科学とは	・小児の発育段階・骨年齢・歯齢
		2）小児歯科診療の意義と目的	・器官の発育形式
2	心身の発育	1）発育の概念と分類	・カウプ指数、ローレル指数
		2）器官の発育・精神的発達・小児の生理的特徴	・スキャモンの発育曲線
3	顔面頭蓋の発育	1）顎顔面頭蓋の発育	・情動・感覚・言語・運動機能の発達
		2）発育の評価法	・摂食嚥下機能の発達
4	歯の発育とその異常	1）歯の形成	・歯の形成・萌出時期
		2）歯の萌出と萌出不全	・歯の形成異常・萌出異常
5	歯列・咬合の発育と異常	1）歯列・咬合の発育	・リーウェイスペース・歯列、咬合の発育異常
		2）歯列・咬合の異常	・不正咬合（機能的、骨格的、口腔習癖）
6	小児の歯科疾患	1）小児にみられる齲蝕	・齲蝕発生の原因
		2）乳歯、幼若永久歯の齲蝕	・乳歯・幼若永久歯の特徴
		3）小児にみられる歯周疾患	・感染性疾患・硬組織疾患・軟組織疾患
		4）全身疾患に伴う歯周炎	・小児の歯周疾患・歯の異常・先天異常
		5）小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 口腔粘膜・歯肉・口唇・小帯の異常・唇顎口蓋裂	
7	小児歯科診療	1）小児期の特徴と歯科的問題点	・新生児、乳児、幼児の診査
		2）小児歯科における診療体系	・予防処置
		3）小児歯科診療における原則	・小児への薬物応用・応急処置
		4）母親教室	・小児う蝕、歯周疾患の処置
		5）小児歯科における麻酔法	
		6）小児の歯冠修復、歯内療法	
		7）小児の外科的処置	・外科的処置
		8）外傷の処置	・咬合誘導
		9）咬合誘導、フッ化ジアンミン銀塗布	・小児の口腔管理
		10）リコール（定期健診）	・小児歯科患者の行動と特徴
8	小児歯科における患者との対処法	1）患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係	・診療行為と情動変化
		2）歯科診療時の対応法	・精神遅滞（知的障害）・脳性麻痺
	障害者の歯科治療	1）障害児における歯科的処置	・発達障害（自閉症など）・ダウン症候群
		2）発達障害	事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1） 科目終了時の最終試験の評価　：90% 2） 出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科予防処置論基礎	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	森田　由紀(実務経験有)

［授 業 の 目 的・ねらい］
歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために概要について学ぶ。

【実務経験有】森田　由紀:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題(行 動 目 標)］
1. 歯科予防処置の法的位置づけについて何も見ずに説明できる。
2. 正常な歯・歯周組織と口腔についての模式図に名称が書ける。
3. 歯石、プラークの形成過程と成分について説明できる。
4. 歯周病の原因と分類、進行過程が説明できる。
5. マネキン上で口腔内検査ができる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内　　容	学習のポイント
1	Ⅰ編1章歯科予防処置の概要	1)歯科予防処置の概要 2)歯科衛生過程とは	・歯科予防処置とは
2	Ⅱ編1章口腔の基礎知識	1)口腔の構造 2)歯周組織とは	・予防的歯石除去法とう蝕予防処置 ・歯周組織の正常像 ・正常な歯肉の遊離縁下
3		3)健康な口腔とは 4)口腔の機能	・健康な口腔の模式図 ・歯冠と歯根 ★確認テスト(筆記)
4	2章う蝕と歯周病の基礎知識	1)口腔内の付着物と沈着物 2)プラークとは 3)バイオフィルムとは 4)歯石とは	・付着物と沈着物 ・歯肉縁上プラークと歯肉縁下プラーク ・プラークの成分と分類 ・歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石
5		5)歯周病とは 6)歯周病の原因と分類と進行	・歯石の成分と分類 ・歯肉炎と歯周炎
6	プラークの観察	1)プラークの観察 2)口腔内の観察 3)歯周診査用器材の種類	・歯周細菌の種類と検体 ・正常歯肉と病的歯肉
7	歯の構造	4)口腔内の構造と歯の構造	・舌苔 ・指先の訓練 ・ファントムの取り扱い
8		1)口腔内観察(基本演習) 2)マネキン上での演習 3)正しい姿勢 4)患者に配慮した言葉遣い 5)患者に配慮した誘導	・器具の把持 ・エキスプローラーの操作 ・歯垢染色 ・ミラーテクニック ・ポケットの分類
			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	確認テスト(筆記)に合格した者が最終試験を受けることができる 1) 科目終了時の最終試験の評価　：90% 2) 出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	森田　由紀・横井　敦子 鈴木　仁美・小野　愛梨（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】森田　由紀・横井　敦子・鈴木　仁美・小野　愛梨：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。
2. 医療面接の目的を説明できる。
3. 歯・歯肉・口腔の検査項目が説明できる。
4. 歯周病とう蝕の指標について説明できる。
5. 歯面研磨と歯周組織検査における基礎知識と使用器材が説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	Ⅲ編2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	1)患者からの情報収集 2)全身の健康状態の把握 3)口腔の器質的問題の把握 4)口腔内観察と検査項目	・歯科衛生アセスメント ・主観的情報と客観的情報 ・閉ざされた質問と開かれた質問 ・器質的と機能的
2	歯周組織の基礎知識	1)正常な歯肉と病的な歯肉 2)歯周ポケット	・クリニカルアタッチメントレベル ・根分岐部病変
3	歯周組織検査	1)エキスプローラーの把持と基本操作	・根分岐部の測定
4	アセスメントとは	1)分析のためのデータ　口腔内写真 エックス線写真 歯周病検査	・PCR・OHI・OHI-S・PℓI・PHP・PMA・PI・GI・GB・CPI・根分岐部検査・DMF ★確認テスト（筆記）
5	指数の種類	2）口腔衛生状態の指数 3）歯周疾患の指数	・客観的評価
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置	マネキン上口腔内の取り扱い　※自身の口腔内で演習 ・マネキン演習	・PCR・OHI・OHI-S ・歯垢染色剤
7		1)ミラーテクニック	
8	プロービングの基礎知識・基礎演習	1）プローブの構造	・ウォーキングプロービング
9		2）動揺度　・机上演習	・プロービングの使用目的と種類 ・プロービングで得られる情報
10		3）プロービング基本操作	・プローブの把持と正しい操作方法
11			・プロービング圧のコントロール ・安全、正確な計測
12	歯面研磨 基礎知識と基礎演習	1）歯面研磨の目的 2）臨床における注意事項	・PMTCと歯面研磨の違い ・歯科器械の取り扱い
13			
14	相互実習のための基本手技	・マネキン演習	
15		※ユニットマネキン使用	

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	確認テストに合格した者が最終試験を受けることができる 1）科目終了時の最終試験の評価　：90% 2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法実習Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・（演習）・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	森田　由紀・横井　敦子 鈴木　仁美・小野　愛梨（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】森田　由紀・横井　敦子・鈴木　仁美・小野　愛梨：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯科衛生過程の情報収集とその目的および内容が言える。
2. 歯周組織検査用器具が列挙できる。
3. 正しい姿勢とポジションで器具の操作ができる。
4. 歯石除去に使用する器具をファントム（マネキン）で正しく操作できる。
5. 歯面研磨に使用する器具をファントム(マネキン)で正しく操作できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	シックルスケーラーの基礎知識・基礎演習	1）手用スケーラー	・シックルスケーラーの形態 ・シックルスケーラーの正しい把持と操作
2	シックルスケーラーの基本操作（前歯部）	1）シックルスケーラーの把持と操作 （上顎前歯部）　・マネキン実習	・4原則 ★確認テスト（実技）
3		2）シックルスケーラーの操作 （下顎前歯部）　・マネキン実習	★確認テスト（実技）
4	シックルスケーラーの基本操作（臼歯部）	3）シックルスケーラーの操作 （右側臼歯部）　・マネキン実習	
5		4）シックルスケーラーの操作 （左側臼歯部）　・マネキン実習	★確認テスト（実技）
6	シャープニング操作	1）シックルスケーラーのシャープニング	・シックルスケーラーの形態 ・シャープニングの方法と刃部の確認
7	偶発事故防止	1）歯科予防処置における偶発事故 2）偶発事故の予防と対策	・患者におこりやすい事故 ・術者に起こりやすい事故
8	PMTCの基本操作	1）PMTCデモ操作の確認 ・マネキン実習	・固定と安全な操作 ・安全な操作
9			・ポジションと姿勢 ★確認テスト（実技）
10	プロービングのマネキン実習	1）プロービングデモ操作の確認 ・マネキン実習	・プロービング圧のコントロール ・安全、正確な計測
11			・ポジションと姿勢 ★確認テスト（実技）
12	プロービングの相互実習	1）口腔内でのプロービング ・相互実習	・挿入角度
13			・口腔内での安全な器械の取り扱い ・ポジションと姿勢
14	歯面研磨のマネキン実習	1）マネキン上での歯面研磨実習 ・マネキン実習	・患者への配慮 ★確認テスト（実技）
15	歯面研磨の相互実習	1）口腔内での歯面研磨実習 ※フッ化物塗布法の実施　・相互実習	・患者への声掛け
			事前学習 次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ
「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
「歯周病学」
全国歯科衛生士教育協議会　監修
医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
1）　実技試験の評価　：90％
2）　出席率　：10％
・各実技試験は授業初めに評価基準を示す
・確認テスト（実技）に合格した者が以後の相互実習に参加することができる
・各実技試験の詳細な評価項目は評価基準表にて示す

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
う蝕予防法	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・（演習）・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位（ 30 時間）	必須	鈴木 仁美・太田 克子 （実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】鈴木 仁美・太田 克子：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における齲蝕予防の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. う蝕の原因について説明できる。
2. う蝕活動性試験を実施し、結果を評価することができる。
3. 小窩裂溝填塞法の術式を把握し、模型に実施することができる。
4. フッ化物応用法を説明できる。
5. フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。
6. フッ化物局所応用法の術式を把握し、実施することができる。

	単 元	内　　容	学習のポイント
1	う蝕予防処置法	1）齲蝕予防処置法の種類 2)う蝕の原因と進行予防方法	
2	う蝕活動性試験	1)う蝕活動性試験とは 2)う蝕活動性試験の意義・条件・目的	・意義・具備すべき条件・使用目的 ・宿主因子の評価方法
3		3)う蝕発病因子の評価方法の種類と特徴 4)う蝕活動性試験の実際	・口腔環境因子の評価方法 ・RDテスト、ミューカウント、Dentocult-SM
4	う蝕予防計画	1)評価結果に基づく予防と治療	・オーラルテスターミュータンス ・Dentocult-LB、カリオスタット、唾液分泌
5	鍍銀法・フッ化ジアンミン銀	1)効果 2)作用機序	
6		3)フッ化ジアンミン銀塗布実習 4)手指および布への着色・脱色実習	
7	小窩裂溝填塞	1）術式 ・ラバーダム防湿のマネキン演習	・グルコースクリアランステスト、緩衝能
8		2）光重合型小窩裂溝填塞机上実習 3）化学重合型小窩裂溝填塞机上実習	
9	フッ化物応用	1）フッ化物局所応用によるう蝕予防法 2)フッ化物の毒性と急性中毒への対応	・急性中毒、慢性中毒 ・悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出
10		3)ライフステージ別のフッ化物局所応用	
11	フッ化物歯面塗布	1)フッ化物歯面塗布法の種類 2）効果的な塗布の時期	・綿球・綿棒塗布法、トレー法、イオン導入法 歯ブラシ法
12		3)使用製材 4)フッ化物溶液の保管と使用量の確認	・2%フッ化ナトリウム溶液 ・リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液
13	フッ化物相互実習	1)術式 2)相互実習　※綿球法・洗口法	
14		3)塗布後の注意 4)フッ化物洗口の実施方法	
15	う蝕予防処置集団応用	1)集団応用の基礎知識 2)集団応用実施例	

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90% 2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科保健指導論基礎	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	森田　由紀（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】森田　由紀：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。
2. 歯ブラシ・歯磨剤・口腔清掃法についての基礎知識と技術を学び、実習で100％磨きを達成できる。
3. 歯ブラシセット、歯ブラシチャートを使用し、ブラッシング法の適応、特徴と留意点を説明できる。
4. ブラッシング方法の種類と方法を説明できる。
5. 補助用具が自身で使用できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	口腔衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導（歯ブラシ）	1)ブラッシング 2)歯ブラシの分類 3)毛先の種類と把持	・パームグリップとペングリップ ・歯ブラシと電動歯ブラシ
2		1)ブラッシング法の分類	・歯磨剤、洗口剤、保湿剤 ・水平法、垂直法、スクラッビング法
3		2)歯ブラシの毛先を使用したブラッシング方法 3)歯ブラシの脇腹を使用したブラッシング方法	・1歯ずつの縦磨き法、バス法 ・フォーンズ法、ローリング法、スティルマン法
4	口腔衛生管理に関わる指導（その他）	1)その他の清掃方法	・チャーターズ法 ★ブラッシング方法実技試験
5			・デンタルフロス ・歯間ブラシ ・タフトブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ ・義歯ブラシ ・口腔ケア用具
6		1)歯磨剤・洗口剤・保湿剤の種類と特徴	・種類 ・基本的な使用法
7			★100％磨き実施（セルフ）
8	歯ブラシセット作成方法 ブラッシング方法のチャート作成		事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 ・歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック	実技試験に合格しなければ最終筆記試験を受けられない 1）科目終了時の最終試験（筆記）の評価　：40％ 2）ブラッシング実技試験　：30％ 3）提出物　：20％ 4）出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年　度／時　期	授　業　形　態
歯科保健指導論Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・（演習）・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
30回	2単位（ 60 時間）	必須	松田　珠生・横井　敦子・鈴木　仁美 森田　由紀・小野　愛梨（実務経験有）

［授 業 の 目 的・ね ら い］
歯科保健指導論基礎の基礎知識を生かし、ライフステージにおける乳幼児から高齢者まで、全身および口腔の健康の維持増進のために口腔ケアの果たす役割を理解し、実習を通して実践力を身につける。
【実務経験有】松田　珠生・横井　敦子・鈴木　仁美・森田　由紀・小野　愛梨：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 保健指導に関わる理論と行動変容が説明できる。
2. 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
3. 各ライフステージ別の口腔衛生指導、食生活指導が説明できる。
4. 自分自身の口腔衛生管理ができる。
5. 保育所、幼稚園、小学校を対象とした健康教育が立案できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	保健行動支援に関わる基礎知識	1)歯科保健指導に関わる理論 2)保健行動と行動変容	・健康信念モデル
2		3)歯科衛生過程の概要	・行動変容のステージモデル
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入	1)妊産婦期 妊産婦期の一般的、口腔の特徴	・喫煙が妊娠に及ぼす影響 ・母子健康手帳
4		妊産婦期の歯科衛生介入、食生活指導	・妊産婦のための食事バランスガイド ・歯周病の影響、低体重児出産
5		2)乳児期 乳児期の発育、口唇と舌機能の発達過程	・乳児期の一般的、口腔の特徴 ・乳児期の歯科衛生介入、食生活指導
6		離乳食の進め方 口腔清掃	・卒乳、食物アレルギー、哺乳反射 ・イオン飲料とう蝕
7		3)幼児期 幼児期の一般的、口腔の特徴	・幼児期の発育 ・幼児期の歯科衛生介入、食生活指導
8		乳歯の萌出時期の理解 情報収集	・食育推進基本計画 ・健やか親子（第2次）
9		幼児期の食生活の特徴と栄養	
10		4)学齢期 学齢期の一般的、口腔の特徴	・学齢期の一般的、口腔の特徴 ・学齢期の歯科衛生介入
11		プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの目標 学齢期の食生活の特徴と栄養	・食育 ・内食
12		学齢期の食事摂取基準	・ペットボトル症候群 ・プラークフリー
13		5)青年期 青年期の一般的、口腔の特徴	・歯周病との関連疾患
14		望ましい保健行動 健康と栄養	
15		青年期の食生活の特徴と栄養 青年期の食事摂取基準 100％ブラッシング	※次のページに続く
			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 ・歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック	1）科目終了時の最終試験の評価　：90％ 2）出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

［授業の内容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
16		100%ブラッシング（歯科衛生過程）	
		6)成人期	
17		成人期の一般的、口腔の特徴	・歯周病との関連疾患
		成人期の食生活と栄養	・ブレスローの7つの健康習慣
18		7)老年期	・生活習慣病と栄養指導
		老年期の一般的、口腔の特徴	・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム
19		老年期の食生活の特徴と栄養	
		老年期の低栄養の要因と食事摂取基準	
20	食生活指導のための基礎知識	1)食生活および食習慣の把握	・食事バランスガイド
21		2)食品と齲蝕誘発性	
		3)咀嚼と食品	・唾液の働き
22			★食事記録提出
23	歯科衛生教育活動	1）健康教育の概要	・指導案
		2）健康教育の進め方	・教育媒体
24		3）学校保健（小学校）における歯科保健指導	・シナリオ完成
		4）シナリオ作成	・媒体決定
25		5)伝達技術（プレゼンテーション）	・PDCAサイクル
		6)前準備・打ち合わせ	
26		7）指導計画表作成	
27	PTC	1)相互実習	・歯ブラシの選択
			・歯ブラシの操作方法
28			・補助用具の選択
			・補助用具の操作方法
29			
30			

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
栄養指導	歯科衛生学科/1年次	2024年度/通年	(講義)・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位（ 15 時間）	必須	松田 珠生(実務経験有)

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体の活動に必要な栄養素の摂取と働きから、健康の維持と増進を考える態度を養うために、栄養と代謝に関する基本的知識を習得する。
【実務経験有】松田　珠生:栄養士の資格をもち、介護支援専門員および歯科衛生士としての業務経験をもとに、学生へ栄養と代謝における基礎知識を教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 健康の維持と増進のために必要とされる、栄養の概略が説明できる。
2. 食事摂取基準とは何かを説明できる。
3. 食品から摂取している糖質、たんぱく質および脂質について、それぞれの生態での役割を概説できる。
4. 成長期、成人期及び高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握できる。
5. 健康づくりのための食事計画を立案できる。

［授 業 の 内 容］

回	単 元	内　　容	学習のポイント
1	栄養の基礎	1)食生活と栄養	・国民健康、栄養調査
		2)栄養素の消化・吸収	・消化酵素
2	食事摂取基準	1)推定エネルギー必要量	・食事摂取基準
		2)基礎代謝	・推定エネルギー必要量、基礎代謝量
		3)日本人の食事摂取基準	・BMI
			・脂肪エネルギー比率
3	栄養素の働き	1)糖質の栄養的意味	・単糖類、二糖類、多糖類
			・グルコース
		2)たんぱく質の栄養的意味	・必須アミノ酸、非必須アミノ酸
4		3)脂質の栄養的意味	・単純脂質、複合脂質、ステロール、脂肪酸
			・飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸
		4)ビタミンの栄養的意味	・水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン
			・欠乏症、過剰症
5		5)ミネラルの栄養的意味	・硬組織の主成分
			・欠乏症、過剰症
		6)水の栄養的意味	
		7)食物繊維の栄養的意味	★確認テスト
6	食生活と健康	1)国民の健康と栄養の現状	・栄養摂取量、食品群別摂取量
		2)望ましい食生活	・食事バランスガイド
		3)ライフステージ別の栄養と管理	・健康日本21
		成長期における栄養と調理の特性	・特定保健用食品
7		4)ライフステージ別の栄養と管理	・食育基本法
		成人期における栄養と調理の特性	・妊娠期、授乳期
		5)ライフステージ別の栄養と管理	・咀嚼困難者
		高齢期における栄養と調理の特性	・嚥下困難者
8	食べ物と健康	1)食品の成分と分類	・食品成分表
		2)食べ物の物性	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能2　栄養と代謝」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1) 科目終了時の最終試験の評価　　：90% 2) 出席率　　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科診療補助論Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/前期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
30回	2単位（ 60 時間）	必須	小野　愛梨・横井　敦子（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する、基礎的知識、技術および態度を習得する。専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術、態度を身につける。
【実務経験有】小野　愛梨・横井　敦子：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。
［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけが説明できる。
2. 共同動作の基本を理解し、フォーハンドシステムの基本的動作ができる。
3. 医療安全管理におけるスタンダードプレコーション、医療廃棄物について説明できる。
4. 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作、取り扱いができる。
5. 歯科用ユニットの構造と機能について説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	歯科診療補助の概念	1）診療の補助とは 2）診療の補助の範囲の法的な変化	・歯科衛生士法 ・保健師助産師看護師法
2	医療安全と感染予防	1)医療安全 2)歯科診療での補助業務	・インシデント、アクシデント
3		3)医療法と医療安全対策 4）感染予防	・フローチャート
4	滅菌と消毒	1)滅菌・消毒・洗浄の定義 2)滅菌法・消毒法	・消毒剤の用途と使用濃度 ・消毒水準分類
5		3)歯科用器材の滅菌・消毒と管理 4)医療廃棄物の取り扱い	・感染リスク ・産業廃棄物、一般廃棄物
6	歯科医療における感染予防対策	1）環境感染予防対策 2)感染事故時の対応	・スタンダードプレコーション
7	手指衛生	1）手指衛生の分類 2）感染を予防するための基本的手法	・手指消毒
8			
9	グローブ装着・着脱の手順	1）グローブ、マスクの付け方、外し方	・ラテックスアレルギー
10		2)プラスチックエプロンの付け方、外し方	★確認テスト(実技)
11	歯科診療における基礎知識	1)歯科診療室の構造と設備	
12		2)歯科用チェアユニット	・歯科用ユニットの取り扱い ★確認テスト(実技)
13	歯科診療所における受診の流れ	1)歯科診療所における患者対応	
14		2)患者誘導	★確認テスト(実技)
15		3)薬品・歯科材料の管理	※次のページに続く
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］
・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」
「歯科機器」「歯科材料」
「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
全国歯科衛生士教育協議会　監修　医歯薬出版株式会社

［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
※授業内の確認テストに合格しなければ最終試験を受けることができない
1）科目終了時の最終試験の評価　：90%
2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

［授業の内容］			
回	単　元	内　　容	学習のポイント
16	口腔内観察	1）口腔内の取り扱い 2）歯の種類と数・歯の表示法	
17		3）歯および口腔検査用機器の取り扱い	
18			
19	綿球・ロールワッテ作成	1）ロールワッテ・綿球作製実習	★確認テスト(実技)
20			
21	共同動作	1)共同動作の概念	
22		2)術者・補助者・患者のポジショニング	
23		3)診療時のライティング	
24		4)フォーハンデッドデンティストリー	
25		5)器具の受け渡し	
26		6)バキュームテクニック	
27		7)スリーウェイシリンジテクニック	
28		8)ミラーテクニック	★確認テスト(実技)
29			
30	まとめ		
	［関連テキスト］ 28、29回 口腔解剖 歯科機器		

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年　度／時　期	授　業　形　態
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授 業 の 回 数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授 業 担 当 者
15/30回	2単位（ 60 時間）	必須	岡村　純子（実務経験有）

［授 業 の 目 的 ・ ね ら い］
歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。
【実務経験有】岡村　純子：歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科材料学の知識を学生へ教授する。

［授 業 修 了 時 の 達 成 課 題（行 動 目 標）］
1. 印象材の種類、用途を説明できる。
2. 模型用材料の種類、用途を説明できる。
3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を説明できる。
4. 成形歯冠修復材の種類、用途を説明できる。
5. ワックス、セラミックス、金属の種類、用途を説明できる。

［授 業 の 内 容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	歯科材料と歯科衛生 歯科材料の基礎知識	1)歯科材料の所要性質 2)歯科材料の取り扱い	・物質の構造 ・医薬品医療機器等法・添付文書
2	印象材	1)印象材の種類と用途 2)印象材の組成と特徴	・アルジネート印象材 ・寒天印象材・モデリングコンパウンド
3		3)印象材の一般的性質	・シリコーンゴム印象材、ポリエーテルゴム印象材 ・酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏
4	模型用材料	1)石膏の種類と用途 2)石膏の一般的性質	・ISO、JISの分類 ・研究用模型、作業用模型
5	合着材・接着材	1)合着材の種類と用途 2)接着性レジンセメントの種類と用途	・グラスアイオノマーセメント ・接着性レジンセメント
6		3)合着材・接着材の一般的性質	・カルボキシレートセメント ・リン酸亜鉛セメント
7	成形修復材	1)成形修復材の種類と用途	
8		2)成形修復材の組成と特徴	
9	仮封材	1)仮封材の種類と用途	・セメント系、レジン系、水硬性仮封材 ・テンポラリーストッピング、サンダラックバーニッシュ
10	暫間修復材と仮着用セメント	2)暫間修復材の種類と用途	
11			
12			
13	ワックス	1)ワックスの種類と用途 2)金属・セラミックスの種類と用途	・金属、合金 ・歯科用陶材
14	セラミックス、金属		・歯科用セラミックス
15			事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」 「歯科機器」「歯科材料」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90% 2）出席率　：10%

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年　度／時　期	授　業　形　態
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2024年度/後期	講義　・　(演習)　・　実習
授業の回数（×90分）	単位数（時間数）	必須・選択	授　業　担　当　者
15/30回	2単位（ 60 時間）	必須	鈴木　仁美・小野　愛梨・横井　敦子 森田　由紀（実務経験有）

［授業の目的・ねらい］
歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。
【実務経験有】鈴木　仁美・小野　愛梨・横井　敦子・森田　由紀：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。

［授業修了時の達成課題（行動目標）］
1. 印象材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
2. 模型用材料の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
4. 成形歯冠修復材仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。
5. 相互実習において、患者に配慮し、印象採得し、スタディーモデルを作製することができる。

［授業の内容］

回	単　元	内　　容	学習のポイント
1	印象材	1)基礎知識	・寒天印象材・モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏
2		2)アルジネート印象材の取り扱い	・アルジネート印象材 ★実技確認
3	模型用材料	1)歯科用石膏の練和	管理方法
4		2)歯科用石膏の取り扱い（実習・石膏棒作成）	★実技確認
5	合着材および接着材	1)基礎知識	・グラスアイオノマーセメント
6		2)グラスアイオノマーセメントの取り扱い 3)カルボキシレートセメントの取り扱い	・カルボキシレートセメント
7		レジン添加型グラスアイオノマーセメント 4)リン酸亜鉛セメント	・リン酸亜鉛セメント
8		5)接着性レジンセメントの取り扱い	・接着性レジンセメント ★実技確認
9	成形歯冠修復材	1)基礎知識 2)成形歯冠修復材の種類	
10	仮封材	1)基礎知識 2)テンポラリーストッピング、セメント系仮封材の取り扱い	・テンポラリーストッピング ・水硬性仮封材
11		3)水硬性仮封材、仮封硬質レジンの取り扱い	・仮封用軟質レジン ・サンダラックバーニッシュ
12	薬品・歯科材料の管理 歯肉圧排、歯周パック	1)基礎知識 2)種類と用途	★実技確認 ・薬剤添加綿糸、歯肉圧排用薬剤
13	スタディーモデル製作		★実技確認
14	スタディーモデル製作		
15	スタディーモデル製作		

事前学習
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］（試験等の評価方法）
・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」 「歯科機器」・「歯科材料」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	1）科目終了時の最終試験の評価　：90％ 2）出席率　：10％

授　業　進　度　計　画（シ ラ バ ス）

科　目　名	学　科／学　年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨地実習Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2024年度/通年	講義　・　演習　・（実習）
授 業 の 回 数（×90分）	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	1単位（ 45 時間）	必須	横井　敦子・森田　由紀 小野　愛梨・鈴木　仁美(実務経験有)

［授 業 の 目 的・ね ら い］
歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。

【実務経験有】横井　敦子・森田　由紀・小野　愛梨・鈴木　仁美：歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージ別の口腔健康管理ができるよう教授する。

［内 容と計画］

事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。（詳細については「実習要綱」を参照）

ライフステージ	実習施設	実習目標
1　乳幼児期	保育所（0歳～3歳）	1. 乳幼児期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健活動を理解する 2. 乳幼児期の身体や口腔機能の発達段階を理解する 3. 乳幼児期に応じたコミュニケーションがとれる
2　学齢期	小学校	1. 小学生を対象とした健康教育をするために学齢期の特性を理解する 2. 小学校における学齢期の健康教育の概要を知る 3. 学齢期に応じたコミュニケーションがとれる
3　老年期	高齢者施設	1. 高齢者施設における要介護高齢者に関わる他職種を知る 2. 高齢者施設における要介護高齢者の生活を知る 3. 高齢者施設における口腔健康管理を知る 4. カンファレンスに積極的に参加できる
4　乳幼児期～老年期	一般歯科診療所	1. 歯科衛生士の業務内容を知る 2. 対象者の守秘義務を遵守できる 3. 歯科における医療安全管理を知る 4. 器材、機器および薬品の管理の方法を知る （詳細は「実習要綱」を参照）

［使用テキスト］	［単位認定の方法及び基準］(試験等の評価方法)
・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会　監修 医歯薬出版株式会社	※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 実習への参加状況および態度、日々の実習日誌、レポート等から総合的に評価する （詳細については評価表参照）

2024年度

授業進度計画

2024年4月1日　発行

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校